



「SAMURAI BLUE」から学んだこと

6月30日(火)に「SAMURAI BLUE」のW杯優勝を目標に掲げた北中米W杯への挑戦は終了しました。ベスト16をかけての対戦相手は、W杯で最多優勝回数5回を誇る優勝候補の一角であるブラジル代表でした。今回のW杯に臨むにあたり、前大会の敗戦から「SAMURAI BLUE」に足りないものを、日本サッカー協会を中心に分析し、そして、選手一人一人が海外で個(技術・



フィジカル・メンタルなど)を磨いてきました。前回大会から続投の森保監督は、優勝するために必要なやるべきことをさらに4年間かけてチームに落とし込んできました。「凡事徹底」という言葉を常に口にし、森保監督をはじめとする「SAMURAI BLUE」は、やるべきことを妥協することなく取り組んできたことと思います。不運なことに同じポジションで起用する主力3選手(南野選手・三苫選手・久保選手)のけがが重なり、準備してきた戦術が最後まで徹底できなかったのかと思います。「タラレバ」を言えば尽きませんが、もっと上を目指せたチームでした。

しかし、「SAMURAI BLUE」として取り組んできた方針と歩みは、今後のチームの確かな方向性を示してくれました。それは、「SAMURAI BLUE」を追い続けてきたサポーターであれば、十分感じているはずです。選手・スタッフ・サポーターが一体となって、日本国民が一つになって歩んでいくW杯優勝への道は、これからも続いていきます。日本サッカー協会が掲げたJFA2005年宣言の「2050年までにワールドカップを日本で開催し、SAMURAI BLUEが優勝する」という壮大な目標を実現するための、これからの光が見えた北中米W杯でした。

南浜中学校では、学校が一丸となって応援してきました。みんなで応援できた26日(金)の朝は、日常の生活から学べない様々なことが学べた貴重な朝であり、かけがえのない時間でした。

「SAMURAI BLUE」の皆さん、ありがとうございました。

観戦後の多くの生徒の感想が、とても素晴らしかったです。その中でも一番早く、思いを込めて提出してくれた島田(1年)さんの感想を裏面に紹介します。

日本代表のチームのあり方について感じたこと、思ったこと、これから活かしたいこと

日本代表の試合を見て、一人一人が自分の役割をしっかりと果たし、仲間を信じて最後まで戦うことが本当のチームだと感じました。苦しい場面でも声を掛け合い、助け合う姿がとても印象に残りました。また、自分だけが活躍しようとするのではなく、チーム全員で勝利を目指すことの大切さを学びました。これからは学校生活でも、友達と協力し、お互いを支え合いながら目標に向かって行動していきたいです。

感想

全校でワールドカップを観戦したことで、みんなと同じ試合を見ながら応援でき、とても楽しい時間になりました。ゴールが決まった時は、会場全体が盛り上がり、一体感を感じることができました。最後まであきらめずに、戦う選手たちの姿を見て、努力することや挑戦し続けることの大切さを改めて感じました。今回の観戦を通して、スポーツの楽しさだけでなく仲間と協力することの大切さも学ぶことができたので、とても良い経験になりました。

サポーター（保護者）の皆さん、選手（お子さん）にエールを！

ここからは、生徒・保護者・学校が、「生徒の自己指導能力の育成」のために、年度初めに決めた方針（三点固定の徹底）に沿って実践している取組の現況をお知らせします。

三点固定の取組については、生徒のグリーンノート記載率 **（4月 53%、5月 71%）** や提出率はどの学年も上がり、自己管理しようとする姿勢が現れるとともに、学習への日々の取組に変化を感じる生徒も増えました。前期定期テストが終了しました。お子さんの成果は、いかがだったでしょうか。気持ちを入れ替えても力が確実について、成果が現れてくるには時間がかかります。今回、力が出し切れなくても続けていきましょう。今回のテストの分析は、9月号でお知らせします。

学校では、生徒が学習に取り組む気持ちを高めるためにお互いを刺激し合う「やればできる会」を3回実施しました。また、放課後には、ランチルームやTDRを解放し、学習できる環境を整えました。放課後に残って学習していく生徒がかなり増えました。担任は、グリーンノートの点検を毎日行い、励ましの声かけをしています。

保護者の皆さんから、お子さんのサポーターとして前向きなコメントの記入があり、意欲につながっているお子さんもいます。しかし、サポーターの声が、まだまだ足りなく **コメント率（4月 49%、5月 36%）** とチーム南浜としてお子さんの力が最大限に発揮するまで至っていません。サッカーの町、南浜中の保護者の皆さん、「SAMURAI BLUE」を応援したように「お子さん」をもっと応援してください。きっとその応援で、お子さんは、もっともっと自分に厳しく、たくましく成長するはずです。ぜひ、よろしくお願いします。

